

【宮崎県納税貯蓄組合連合会会長賞】

身近な税金の助け

都城市立祝吉中学校

三年 遠矢 悠叶

私の小さい頃の願いは「妹が欲しい」ということだった。その願いが叶った時は、小学三年生の時だ。私は妹が産まれたと聞いてとても嬉しかった。会えることが楽しみで、心が弾んでいた。しかし、妹は帰ってくるどころか会えることも中々できなかった。なぜなら、妹は心室中隔欠損症であったため、入院を余儀なくされたからだ。入院をするにあたり、母は妹の付きそいで家にほとんどいなかった。その間私は、祖母の家で生活することになった。妹が元気に一日でも早く帰ってくることを願っていた。両親は何もかもが初めての経験で戸惑うことが多かったと言っていた。何よりも大変だったというのは、胃の中に直接栄養を入れる為に鼻から胃にかけてチューブを入れるという医療行為だったらしい。心臓に負担をかける為に、絶対に出来ないといけなかったらしい。私はその頃まだ小さかったのでよくわからなかったが、最近両親が妹の成長を喜んでいる時に、昔話をしている話を聞く機会があり、大変だったんだと知った。

妹は小さくてかわいく、大人しかったようだ。心臓に負担をかけないようにと泣かせないようにしていたとも聞いた。そもそも心室中隔欠損症とは、心室の壁に穴が開いている状態である。一般的には穴の大きさによって自然治癒する人もいれば、手術をしなければならぬ人もいる。妹は後者の方だった。生後四ヶ月で妹は手術をした。手術も成功はしたものの経過が順調ではなく、肺に水がたまってしまう、とても苦しそうな状態であり入院が長引いてしまったが、何とか退院を迎えることができた。退院するにあたって、心臓手術代が数百万円かかるとのことだった。それを聞いた私は、想像を超える金額にとっても驚いた。実際は、ありがたいことに心室中隔欠損症が小児慢性特定疾病医療費助成制度に該当した為、手術代を含む高額な医療費が税金によって助けられた。そして妹の命も助けてもらうこともできた。色んな人達によって助けてもらい感謝でしかないと感じた。

現在妹は術後も定期的検診と心臓以外にも整形外科・耳鼻咽喉科・眼科と定期受診をしている。今は市の子ども医療費受給資格証のおかげで、自己負担無しという病院受診が多い子どもにとっては、とてもありがたい制度で毎回助かっている。

今回そういった税金に助けられたことを両親から改めて聞く機会があり、私もとてもありがたいことだと思った。

今まで学校で税について学ぶことがあった。橋や道路を作る公共事業や社会福祉に使われていると理解はしているものの、あまり実感がなかった。しかし今回の両親の話を聞いて身近な所で税金に助けてもらっているんだと気づくことができて良かったと思う。他にも色々な税金の用途により助かっている人は多くいると思う。

これから私が成人してから、今度は感謝の気持ちでしっかりと納税をしていこうと思った。また、納めた税金が困っている人の助けになって欲しいと心から願う。